

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

三好市立山城小学校  
「学力向上実行プラン」

- ① 自分の考えを豊かに表現できる力を育成する。
- ② 自ら進んで学習に取り組む態度を育成する。

学力向上推進員 委員 校長 磯村 淳 教頭 喜多 勝美  
 低学年学力推進員 中学年推進員 藤本 大生  
 大久保 智美 高学年推進員 福良 知紀

三好市山城小学校校長  
 磯村 淳

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○指示された課題に誠実に取り組み、できることを増やそうと努力できている。 ●学習内容の定着に時間がかかり、既習内容の定着が思うように進まない児童がいる。	読み書き計算に習熟した子ども	・ペア学習を行い、教え合い活動の充実を図りながら、個人差を考慮する。 ・学期末に漢字・計算検定を実施し、基礎学力の定着を図る。 ・朝の活動を利用し、タブレットやドリルを用いた繰り返し学習をし、知識技能の定着を図る。 ・学習課題の出し方を工夫する。	・学習形態や家庭学習の内容について個人差等を考慮するなど工夫していく。 ・学習のスタートとゴールを見据えた授業を構築する。 ・計算漢字検定についてよりよい実施の仕方を考える。	・ペア学習・タブレット学習など個人差を考慮した学習形態を取り入れることができた。 ・学期末の漢字・計算検定については、事前の練習を重視して取り組んだことで基礎基本の定着が図れた。 ・朝の活動のタブレットによるドリル学習は、火・金曜日に全校で取り組むことができた。	・授業での工夫や改善点などを教師間で共有し、指導力の向上につなげる。特にICTの授業での活用について研修を深める。 ・漢字・計算検定については、実施をする前の事前練習にしっかり取り組ませる。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○これまでの経験や学習を生かして、自分の伝えたいことを表現しようと努力している。 ●根拠を明確に持ち、自分の考えを説明することが苦手な児童が多い。また、書くことに対して苦手意識を持つ児童もいる。	根拠を明らかにして自分の考えを話したり書いたりし、相手に分かりやすく伝えることができる子ども	・ノートや決められた用紙、ホワイトボードやICT(オクリンク等)を効果的に活用し、根拠を明らかにして自分の考えを書く活動を、授業に1日1回以上取り入れる。 ・考えの手引きや表現の手引き、学習の手引きなど学習のモデルを提示し、指導・支援することでわかりやすく伝えようとする力を高める。	・引き続きICTの効果的な活用を工夫していく。 ・ホワイトボードの活用を充実させていく。 ・書く活動を発表することに結びつけていく。	・ノート・ホワイトボード・オクリンク等表現手段を多く持つことができたので、自分の考えを書く活動が1日1回以上取り入れることができている。根拠を明らかにして自分の考えを話すことは身につくにつれてある。 ・考えや表現の手引きをモデルとして提示することで、表現の幅が広がってきている。	・1日1回の書く活動については、授業や活動前後など取り入れる場面・機会を増やしていく。授業の練り上げの場面等で取り入れるようにしていく。 ・説明時には、具体物・絵・図など効果的に用いることができるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習課題に対して興味を持って取り組み、最後までやり遂げようとする意欲がある。家庭学習にも主体的に取り組むことができる。 ●計画や見通しを立てて行動・学習する意欲・態度が弱い。諦めやすい。	自ら計画を立て、学習に取り組む子ども	・家庭学習や自主学習に意欲的に取り組めるように、チャレンジデーや家庭読書の日を設定、家庭と連携して学習の意欲を高める。 ・ICTを活用して児童の興味関心に応じた自主学習の課題に取り組ませる。 ・主体的に取り組む児童のノートなどの記録を掲示し、他の児童のお手本や学びにする。	・月一回のアウトメディア週間に合わせて、家庭チャレンジデーを設け発達段階に応じた家庭学習を充実させていく。 ・ノートや記録などについては、引き続き学びの材料としていく。	・月1回の「アウトメディア週間」に合わせて家庭読書やお手伝いなど家庭への啓発ができた。「家庭チャレンジデー」という言葉については定着していない。 ・ノート指導により、学習の流れが身についた。次時への見通しを持たせ、児童に思考の流れを可視化することができた。	・主体的に取り組む態度が強化されるよう家庭との連携を図る。家庭学習・自主学習の啓発として「家庭チャレンジデー」を定着させ家庭への啓発を図る。 ・児童が思考の過程を確認できるノート指導について工夫する。

令和5年度 学力向上ロードマップ

